

## 令和2年度第5回人間文化研究機構教育研究評議会 議事概要

○ 日 時： 令和3年3月10日（水） 10：00～11：46

○ 場 所： Web会議システム「Zoom」

○ 出席者： 青山、荒木、井上、大塚、神作、岸上、キャンベル、窪園、窪田、酒井、佐藤、瀧井、田窪、谷口、西谷、野家、林部、平井、平川、三田村、安成、吉田（和）、吉田（憲）の各評議員

陪席者： 李理事、永村理事、小泉監事、山本事務局長

事務局： 監査室長、歴博、国文研、国語研、日文研、地球研及び民博の各管理部長、本部事務局の総務課長、企画課長、財務課長、施設課長、企画課課長補佐、財務課課長補佐、その他関係職員

○ 概 要：

議事に先立ち、事務局から、会議の定足数を満たしている旨の報告及び配付資料の確認等があった。

議 題：

（議事概要）

（1）令和2年度第4回議事概要について（資料1）

機構長から、令和2年度第4回教育研究評議会の議事概要について報告があった。

（審議事項）

（1）令和3年度計画（案）について（資料2）

岸上理事から、資料2に基づき、令和3年度計画（案）の概要について説明があり、審議の結果、了承された。

なお、本件に係る今後の取り扱いについては、機構長一任とすることが了承された。

（報告事項）

（1）令和元事業年度業務実績評価について（資料3）

岸上理事から、資料3に基づき、令和元事業年度業務実績評価について報告があった。これを受け、以下の意見があった。

・ 財務内容の改善の項目で、企業との連携が評価されているようだが、複数の機関で事例があるのか。また、機構全体として取り組んでいることはあるか。

⇒ 歴博では、花王株式会社との共同研究のほかに、羽田国際空港と成田国際空港での展示、クラウドファンディング、学術指導制度等を実施している。また、民博ではパナソニックシステムソリューションズ ジャパン株式会社と連携した電子ガイドやビデオオーディオシステムの開発、国語研では広辞苑の改訂にコーパスを使用する等、複数の企業との協定を結んでいる。

機構全体としては、可視化・高度化事業を通して積極的に研究成果を可視化することに取り組んでいる。

（2）大学共同利用機関の外部検証結果について（資料4）

岸上理事から、資料4に基づき、大学共同利用機関の外部検証結果について報告があった。これを受け、以下の意見があった。

・ 各機構を同じスケールに当てはめた評価のように見受けられるが、それぞれの学問領域の特異性は考慮されているのか。

⇒ 「国際性」の捉え方の違いなど、学問領域による差異については機構から申し出を行った。

- ・ 外部評価において、外国人研究者・女性研究者の割合について複数機関で指摘を受けているが改善策はあるのか。

⇒ 外国人研究者の招聘については予算が削減されている問題もあるが、可能な範囲で招聘を続けており、また、直接雇用についても、面接のオンライン化等の外国人研究者が応募しやすい環境の整備を進めている。女性研究者の割合についても、可能な範囲で割合を向上するよう努力している。

(3) 総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について（資料 5）

窪田理事から、資料 5 に基づき総合人間文化研究推進センターにおける実施事業について報告があった。

(4) 総合情報発信センターにおける実施事業について（資料 6）

青山理事から、資料 6 に基づき、総合情報発信センターにおける実施事業について報告があった。

(5) 人文知応援フォーラムとの連携について（資料 7）

青山理事から、資料 7 に基づき、人文知応援フォーラムと連携し、第 1 回人文知応援大会を開催した旨について報告があった。

(6) 人間文化研究機構とボン大学（ドイツ）との学術交流協定の締結について（資料 8）

李理事から、資料 8 に基づき、人間文化研究機構とボン大学（ドイツ）との学術交流協定の締結について報告があった。

以上